

新学習指導要領に対応した学習評価 (中学校 国語科)

文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 杉本 直美

1. 新学習指導要領における学習評価について
2. 「単元の評価規準」の作成について
－ 学習指導要領との関連を踏まえながら －
3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について
－ 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の4事例から －

※ 以降、「参考資料」と略します。

1.新学習指導要領における学習評価について

「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編」

令和元年6月 文部科学省 国立教育政策研究所

(全12ページ)

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf



※ 以降、「ハンドブック」と略します。

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものです。

- ・教師が指導の改善を図る
- ・生徒が自らの学びを振り返って、次の学びに向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要です。

◆ 市販版『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語』（令和2年6月）には、冊子末に付いています（白黒ページ）。

学習評価の
在り方
ハンドブック

小・中学校編



P2 学習指導要領 学習指導要領解説
 P4 学習評価の基本的な考え方
 P6 学習評価の基本構造
 P7 特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の評価について
 P8 観点別学習状況の評価について
 P10 学習評価の充実
 P12 Q&A -先生方の質問にお答えします-

文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

1.新学習指導要領における学習評価について

観点別学習状況の評価の観点

[平成20年改訂]

国語への関心・意欲・態度

話す・聞く能力

書く能力

読む能力

言語についての
知識・理解・技能

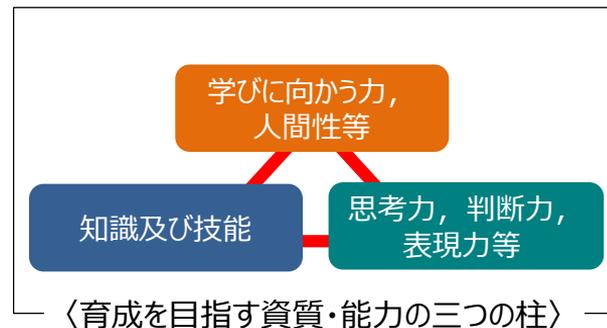
[平成29年改訂]

知識・技能

思考・判断・表現

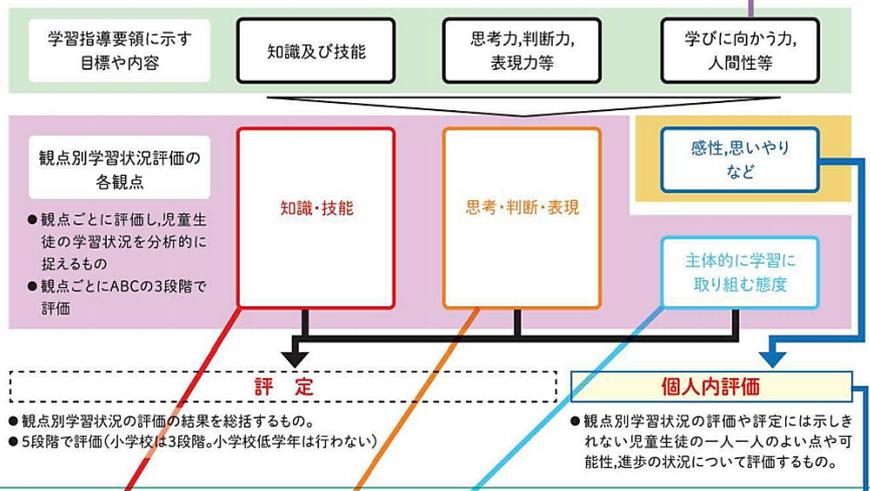
主体的に学習に
取り組む態度

各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って再整理され、どのような資質・能力の育成を目指すのかが明確にされたことを踏まえ、3観点到整理されています。



1.新学習指導要領における学習評価について

各教科における評価の基本構造



「学びに向かう力,人間性等」には

①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができ部分と、

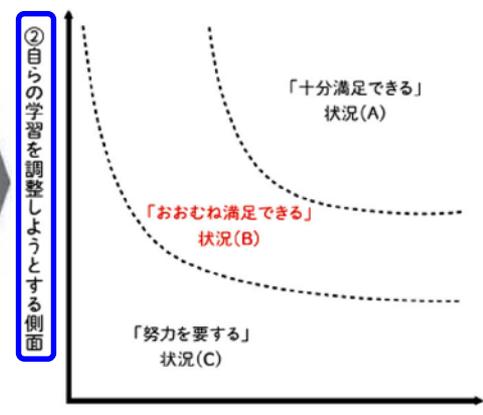
②観点別評価や評定にはなじまず,こうした評価では示されないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

「ハンドブック」p.6,8,9

※「参考資料」はp.8~10参照

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる。
- これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力,判断力,表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

知識及び技能を獲得したり,思考力,判断力,表現力等を身に付けたりするために,自らの学習状況を把握し,学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら,学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

個人内評価の対象となるものについては,児童生徒が学習したことの意味や価値を実感できるよう,日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要です。特に,「学びに向かう力,人間性等」のうち「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性,進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要です。

「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面的ことです。評価に当たっては、生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

2. 「単元の評価規準」の作成について - 学習指導要領との関連を踏まえながら - 〈5〉

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校国語」

令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_kokugo.pdf

〈本書の構成〉

第1編 総説

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

第3編 単元ごとの学習評価について
(事例)



※ 市販版あり。

「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

中学校

国語

令和2年3月

文部科学省
国立教育政策研究所
NIER
National Institute for Educational Policy Research
教育課程研究センター

2. 「単元の評価規準」の作成について

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step1

単元で取り上げる
指導事項の確認

Step2

単元の目標と
言語活動の設定

Step3

単元の評価規準の設定

Step4

単元の指導と
評価の計画の決定

Step5

評価の実際と手立ての想定

Step1

・年間指導計画等を基に、単元で取り上げる**指導事項**を確認する。

Step2

・Step 1 で確認した指導事項を基に、以下の3点について単元の目標を設定する。

(1)「知識及び技能」の目標

(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標

(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標

} 基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

→(3)は、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

・**単元の目標を実現するために適した言語活動**を、言語活動例を参考にして位置付ける。

(「参考資料」p.38)

2. 「単元の評価規準」の作成について – 学習指導要領との関連を踏まえながら – 〈7〉

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step 1

単元で取り上げる
指導事項の確認

Step 2

単元の目標と
言語活動の設定

Step 3

単元の評価規準の設定

Step 4

単元の指導と
評価の計画の決定

Step 5

評価の実際と手立ての想定

(「参考資料」p.38)

Step 2

(1)「知識及び技能」と(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標は、単元に位置付けた**指導事項**の文言を基本にする。文末は「～ができる。」にする。

1 単元の目標

(1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。

〔知識及び技能〕 (2)ア

(2) 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕 B (1)エ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

「学びに向かう力、人間性等」の目標は、学年の目標の(3)を基に示す。

2 本単元における言語活動

関心のある事柄について、投書を書く。 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 B (2)ア)

単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考に具体化する。

引き続き、言語活動を通して指導事項に示した内容を指導することが大切です。

2. 「単元の評価規準」の作成について – 学習指導要領との関連を踏まえながら –

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step1
単元で取り上げる指導事項の確認

Step 2
単元の目標と言語活動の設定

Step 3
単元の評価規準の設定

Step 4
単元の指導と評価の計画の決定

Step 5
評価の実際と手立ての想定

(「参考資料」p.38)

Step 3

・単元の評価規準を作成する。

今回の改訂では、指導事項に示された資質・能力を確実に育成するため、基本的には、**指導事項をそのまま評価規準とすることとしています。**

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の**指導事項の文末を「～している。」として作成**する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

(例) 〔知識及び技能〕(1)

Ⅰ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。

➡ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。

➡ 指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。

二つ目は、指導事項の一部を用いた場合。当該単元において、育成したい資質・能力に応じて、このように指導事項の一部を用いて評価規準を作成することも考えられる。

2. 「単元の評価規準」の作成について – 学習指導要領との関連を踏まえながら – 〈9〉

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step 1

単元で取り上げる
指導事項の確認

Step 2

単元の目標と
言語活動の設定

Step 3

単元の評価規準の設定

Step 4

単元の指導と
評価の計画の決定

Step 5

評価の実際と手立ての想定

(「参考資料」p.38)

「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の**指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、**文末を「～している。」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

(例) 〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」

Ⅰ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。

➡ **「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。**

各領域において育成を目指す資質・能力を明確にするため、「思考・判断・表現」の**評価規準の冒頭に、領域名を明記する。**

例えば、上記 BⅠをこのように…

新聞の投書を書く際に、友達の意見を根拠に文章を書き直している。

✗ 評価すべき資質・能力とズれている？

2. 「単元の評価規準」の作成について – 学習指導要領との関連を踏まえながら – 〈10〉

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step 1

単元で取り上げる
指導事項の確認

Step 2

単元の目標と
言語活動の設定

Step 3

単元の評価規準の設定

Step 4

単元の指導と
評価の計画の決定

Step 5

評価の実際と手立ての想定

(「参考資料」p.38)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については・・・

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組**を行おうとする側面、
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整しようする側面**、という二つの側面を評価することが、各教科等で求められている。

上記①②を適切に評価するためには、**特に、粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動**を考えて授業を構想し、評価規準を設定することが大切です。

2. 「単元の評価規準」の作成について – 学習指導要領との関連を踏まえながら – 〈11〉

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step1

単元で取り上げる
指導事項の確認

Step 2

単元の目標と
言語活動の設定

Step 3

単元の評価規準の設定

Step 4

単元の指導と
評価の計画の決定

Step 5

評価の実際と手立ての想定

(「参考資料」p.38)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方

以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に
応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようと
している。」とする。なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を
例示したものであり、これ以外も想定される。

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、
今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮
してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要と
なる具体的な言語活動）

2. 「単元の評価規準」の作成について – 学習指導要領との関連を踏まえながら – <12>

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step1

単元で取り上げる
指導事項の確認

Step 2

単元の目標と
言語活動の設定

Step 3

単元の評価規準の設定

Step 4

単元の指導と
評価の計画の決定

Step 5

評価の実際と手立ての想定

(「参考資料」p.38)

(例) 3 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) | ①「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ②「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) | ① 粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもって新たに知った言葉を紹介しようとしている。 |

➡ 粘り強く ① 表現を工夫し ③ , 学習の見通しをもって ②
新たに知った言葉を紹介しようとしている ④) 。

※便宜的に番号を付した。
実際に付記する必要はない。

単に活動しているかどうかではなく、②(上記であれば「学習の見通しをもって」)で設定した内容を言語活動を通して発揮しようとしているかどうかをみるのが重要です。

2. 「単元の評価規準」の作成について – 学習指導要領との関連を踏まえながら –

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step1
単元で取り上げる指導事項の確認

Step 2
単元の目標と言語活動の設定

Step 3
単元の評価規準の設定

Step 4
単元の指導と評価の計画の決定

Step 5
評価の実際と手立ての想定

(「参考資料」p.38)

Step 4

・各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

「単元の評価規準」と対応。

4 指導と評価の計画（5時間）

| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
|---|--|-------------------|-------------|
| 1 | ○ 「語彙手帳」(日頃から、新しく知った語彙を書き留めている手帳)などから、自分が友達に紹介したい言葉を決める。 | [思考・判断・表現] ① | ノート |
| 2 | ○ 話し方の工夫について話し合う。 | [主体的に学習に取り組む態度] ① | 観察 ノート |
| 3 | ・ ○ スピーチの構想メモを書く。 ○ スピーチの練習を行う。 | | |
| 4 | ○ スピーチの発表会を行う。 | [思考・判断・表現] ② | 発表 |
| 5 | ・ ○ 他の人のスピーチを聞いて新たに知った言葉と用例を「語彙手帳」に書く。 | [知識・技能] ① | ノート 語彙手帳 |

それぞれの評価規準に基づいて評価するために、どのような方法で(何を)評価するのかを決める。

2. 「単元の評価規準」の作成について – 学習指導要領との関連を踏まえながら –

〈中学校国語科の授業づくりの基本的な流れ〉

Step1
単元で取り上げる指導事項の確認

Step 2
単元の目標と言語活動の設定

Step 3
単元の評価規準の設定

Step 4
単元の指導と評価の計画の決定

Step5
評価の実際と手立ての想定

Step 5

・それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「B（おおむね満足）と判断する状況」の例、「C（努力を要する）と判断する状況への手立て」の例を想定する。

【単元の流れ】

| | | | |
|---|---|--|--|
| 時 | | | |
| 1 | ○ 学習 かみ、 | ○ 「語彙手帳」(あるいは書籍、 教科書など) から、集めた 言葉を紹介します。 | とができる スピーチのモ |
| | ○ 「語彙手帳」(あるいは書籍、 教科書など) から、集めた 言葉を紹介します。各日、 目的を踏まえて、候補 言葉を選んだ理由・ 例・出合い・エピソード を整理しながら、友達 と話し合う言葉を決める。 | 思考・判断・表現 ①「話すこと・聞くこと」にお いて、目的や場面に応じて、 日常生活の中から話題を決 め、集めた材料を整理し、伝 え合う内容を検討している。 (A(1)ア) | [思考・判断・表現] ① ノート ・ここでは、紹介する言 葉やその言葉に関する エピソードを、目的や 場面、相手などを考え て整理しているかを確認 する。 |

新たに知った言葉を友達に紹介する

設定した「単元の評価規準」について、実際の学習活動に照らして「Bと判断する状況」を具体的に想定することが極めて重要です。

(「参考資料」p.38)

例えば、「ここでは、～しているかを確認する。」という形で表し、「Bと判断する状況」を想定している。

3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について - 「参考資料」4 事例から - <15>

事例 1 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元「新たに知った言葉を紹介する ～聞き手を意識して話す～」
 (第 1 学年 A 話すこと・聞くこと)

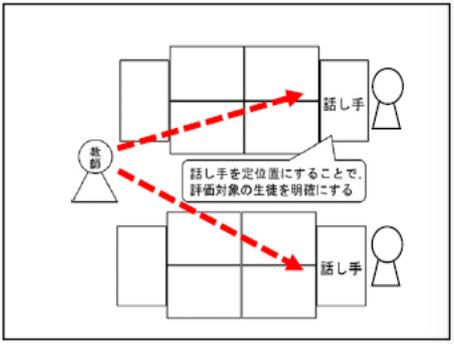
4 指導と評価の計画 (5 時間)

| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 |
|---|---|---|
| 1 | ○ 「語彙手帳」(日頃から、新しく知った語彙を書き留め、紹介した) | [思考・判断・表現] ① |
| 2 | ○ 話し方 | 観察 ノート |
| 3 | ○ スピーチの練習を行う。 | |
| 4 | ○ スピーチの発表会を行う。 | |
| 5 | ○ スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入している姿を評価 | [思考・判断・表現] ② [知識・技能] ① A(1)ウ (1)ウ |

実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて問いかけたり、発言を繰り返したり、説明の仕方を変えたりしている姿を、**座席の位置を工夫することで把握したり、ノートの書き方を指示して効率的に評価できるよう工夫**

日頃から使用している「語彙手帳」を使い、スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入している姿を評価

【評価の効率化のための座席の工夫例】



【生徒 Z のノートの記述】

※ 押読といり言葉、知っていますか。
 ※ 聞き手を引き付けるため、問いかけから入る
 ○ 先日、父が電話口で「ハイドクしました」と話していた
 ※ もっと友達に関心をもってもらいたい

・意図的に表現の工夫をしようと考えている部分について※印を付けて記入すること
 ・練習での相手の反応やアドバイスによって変更した部分は赤ペンで書き込むこと

3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について - 「参考資料」4 事例から - <16>

観点別学習状況の評価の総括

【評価メモ】

| 観点 | [知識・技能] | [思考・判断・表現] | [主体的に学習に取り組む態度] |
|------------|---|--|---|
| Bと判断する状況の例 | ①スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入しているか | ①紹介する言葉を決め、目的や場面、相手などを考えて、その言葉に関するエピソードなどの話す材料を整理しながらスピーチの内容を検討しているか | ②実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて問いかけたり、発言を繰り返したり、説明の仕方を変えたりしているか |
| 評価の材料 | ・語彙手帳 | ・ノート | ・発表 ・ノート |

Aと判断するポイントの例

・速やかさ ・丁寧さ ・集団への寄与 ・興味の広がり ・応用・活用の意識 など

| | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|
| 生徒X | B | B | A | A | A | A |
| 生徒Y | A | A | A | B | B | B |

指導事項ア 指導事項ウ

「年間指導計画表」では、本単元で特に重点的に指導し評価する（◎で示してある）のは、指導事項ウである。

➡ 単元における評価は、「B」とした。

「年間指導計画表」の例

(第1学年【思考力、判断力、表現力等】「A話すこと・聞くこと」の一部を抜粋)

| No | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | 4 | | | |
|------|------------|---|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 単元名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第1学年 | 指導事項・言語活動例 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 指導時数 | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) | ア | 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。 | | | | | | | | | | | | | | |
| | イ | 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ウ | 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 | | | | | | | | | | | | | | |

| No | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | 4 | | | |
|----|--|---|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 〔思考力、判断力、表現力等〕 | ア | 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 | | | | | | | | | | | | | |
| イ | | 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考へること。 | | | | | | | | | | | | | | |
| ウ | | 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 | | | | | | | | | | | | | | |
| エ | | 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。 | | | | | | | | | | | | | | |
| オ | | 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。 | | | | | | | | | | | | | | |
| ア | | 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。 | | | | | | | | | | | | | | |
| イ | 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。 (上記以外の言語活動) | | | | | | | | | | | | | | | |

◎：特に、重点的に指導し評価する内容

3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について - 「参考資料」4 事例から - <17>

事例 2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価, ICTの活用

単元「投書を書こう ～多様な読み手を想定して文章全体を整える～」 (第3学年 B書くこと)

4 指導と評価の計画 (4時間)

| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
|---|--|--|--------|
| 1 | ○ 関心のある事柄から新聞に投書する題材を決め、自分の意見と根拠をワークシートに書いて整理する。 | [知識・技能] ① | ワークシート |
| 2 | ○ 投書の下書きをワープロソフトで入力する。 ○ グループで下書きを読み合い、分かりにくい部分等について確認し合う。 | 本時は、B(1)ウに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含まない | |
| 3 | ○ 投書にふさわしい表現について考える。 ○ 読み手の立場に立って自分の下書きを読み、目的や意図に応じた表現になっているかを確認する。 | [主体的に学習に取り組む態度] ① | 下書き原稿 |
| 4 | ○ 前時に考えたことを基に、ワープロソフトの校閲機能を用いて推敲する。 ○ 推敲した文章を教師に提出し、希望者は清書したデータを投稿する。 | [思考・判断・表現] ① | 推敲文章 |

【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

先日、いつも通る信号のない横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔で返してくれた。

一生道を譲り続けても合計は百歩にもならないという言葉も教えてもらったことがある。私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした読み合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

コメント[P1]:いきなり自分の考えが書いているので、この考えに賛成しない人は、譲わるをやめてしまってもいい。最初は自分が経験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント[P2]:誰の言葉?(山田)

コメント[P3]:誰から?(佐藤)

コメント[P4]:誰から教えてもらったのが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで取得力を高めたい。

[主体的に学習に取り組む態度] ①
下書き原稿
・多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現の検討

Bと判断する状況を【キーワード】で想定

自分の下書きを読み直して試行錯誤しながら表現を整えようとしているかどうかを見るために、生徒がワープロソフトのコメント機能を用いている様子や書いている内容を【キーワード】により評価した。

3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について－「参考資料」4 事例から－^{〈18〉}

事例3 グループ活動における個別の評価，テストの工夫

単元「『走れメロス』を読んで，登場人物の言動の意味を語り合おう」
(第2学年 C読むこと)

4 指導と評価の計画 (5時間)

| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
|---|--|-------------------|--------|
| 1 | ○ 「走れメロス」を通読し，話の展開や内容の大体をつかむ。 | [思考・判断・表現] ① | ワークシート |
| 2 | ○ 3人グループになり，各自が担当する登場人物を決め，人物の設定の仕方や，言動とその意味について考えたことをワークシートにまとめる。 | | |
| 3 | ○ グループで，各自がまとめたワークシートを模造紙に貼り，記号等を用いて登場人物同士の言動の関係について整理する。 | [知識・技能] ① | 模造紙 |
| 4 | ○ 前時で整理した関係の中から更に考えたいものを各自一つ選び，その関係が話の展開などにどのように関わっているかについて考え，語り合う。 | [主体的に学習に取り組む態度] ① | 観察 |
| 5 | ○ 前時で語り合った登場人物同士の言動の関係と話の展開との関わりについて，考えたことをノートに文章でまとめる。 ○ 「走れメロス」を読み直し，単元で学習したことについて確認する。 | [思考・判断・表現] ② | ノート |

[知識・技能] ①

模造紙

・ここでは，登場人物同士の言動の関係を，記号等を用いて表しているかを確認する。

3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について - 「参考資料」4 事例から - <19>

グループ活動における個別の評価

(第3時)

登場人物の言動と言動がどのように関わり合っているのかを可視化して整理する学習活動において、模造紙に解釈や記号等を記入する前に、「情報と情報との関係の様々な表し方」の例を全体で確認した。

【関係の表し方の例】

- 同じ意味内容や似たような意味内容をもつもの同士は「**=====**」を記入する。
- 反対の意味内容をもつもの同士は、**「<----->」**を記入する。
- 原因と結果の関係を表すもの同士は、**「----->」**を記入する。
- 上記に含まれない関係を表す場合は、**「-----」**、**「-----」**などを記入する。

なお、本事例では、グループ内の各生徒に異なる色のペンを持たせて学習活動を行わせることで、グループ活動における個別の学習状況について明確に評価できるようにした。

【3枚のワークシートを貼付した模造紙への書き込み】

*ここでは、生徒Xと生徒Zの記述の一部を用いて説明する。

【生徒Zの書き込み①】

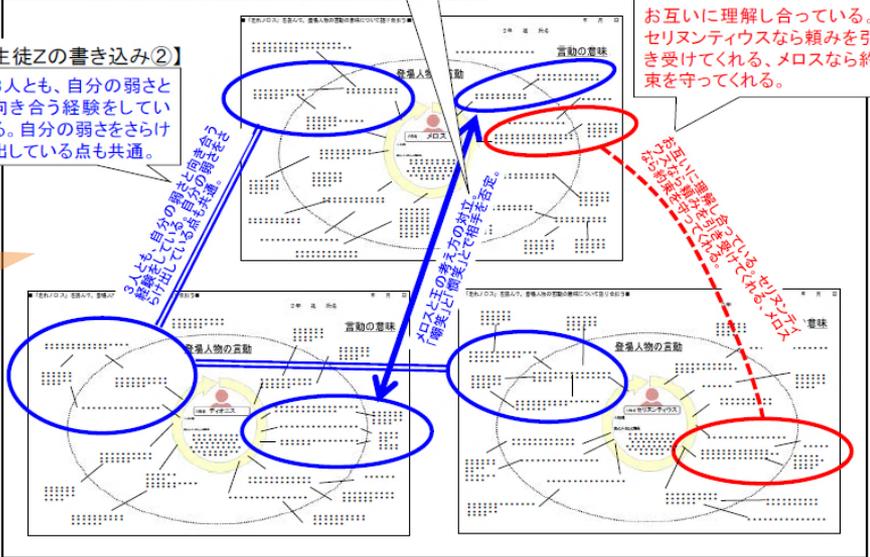
メロスと王の考え方の対立。「嘲笑」と「憫笑」とで相手を否定。

【生徒Zの書き込み②】

3人とも、自分の弱さと向き合う経験をしている。自分の弱さをさらけ出している点も共通。

【生徒Xの書き込み】

お互いに理解し合っている。セリヌンティウスなら頼みを引き受けてくれる、メロスなら約束を守ってくれる。



3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について - 「参考資料」4 事例から - <20>

テストの工夫

【思考・判断・表現】①
ワークシート

・ここでは、文章全体を踏まえて、担当する登場人物の「人物像」と「他の人物との関係」について正確に捉えているかを確認する。

*本評価は、Aと判断する状況については、単元終了後のテストで判断する。【テスト例1】参照

Aと判断する状況については、以下に示した内容を単元末の小テストで問い、文章全体を踏まえて適切に解答できたものとした。

授業で取り上げなかったフィロストラトスについて出題することで、資質・能力（指導事項）の定着を確認するテスト例

【テスト例2】(資質・能力の定着状況を見る)

〔登場人物同士の言動の関係を捉える問題例〕

次のフィロストラトスの言葉は、他の登場人物のどのような言動と関係していると思いますか。あの条件1から条件3にわたって、あなたの考えを書きなさい。

「やめてください。走るのはやめてください。今は自分のお命が大事です。あの方は、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様がさんざんの方をからかっても、メロスは来ますとだけ答え、強い信念をもち続けている様子でございました。」

条件1 関連していると考ええるメロス、セリヌンティウス、ディオニスのいずれかの人物の言動を引用すること。

条件2 フィロストラトスの言葉とどのように関係しているかについて説明すること。

条件3 百五十字から二百字程度で書くこと。

〔正答例〕

○メロスの言動を引用
「それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ」というメロスの言葉と関係している。このフィロストラトスの言葉によって、メロスはセリヌンティウスが自分信じていたことを知った。そのことによって、メロスは、走るのを止めようと考えた自分自身を信じたいか、友のために拘束を守ろうとする決意を強めて聞かぬ、間に合わせは問題ではないのだ」と最後の力を振り絞って走っているのだと思う。(186字)

○セリヌンティウスの言動を引用
「私は三日の罰、たった一度だけ、ちらと唇を噛んだ。生まれて初めて唇を噛んだ」というセリヌンティウスの言葉と関係していると思います。このフィロストラトスの言葉によって、周りから見たセリヌンティウスはメロスが戻ってくることを信じ切っているように見えたことになりました。このことが、実はセリヌンティウスも心の中では一度だけメロスを疑っていたということを確認しているからです。(186字)

○ディオニスの言動を引用
ディオニスが最後に言った「おまえらは、わしの心に勝つたのだ」というセリフの「おまえら」には、走り出したメロスだけでなく、王のからかいに勝じなかったセリヌンティウスをたたく気持ちも込められている。このフィロストラトスの言葉があるからこそ、ディオニスの最後の言葉に込められた気持ちを読み取る事ができるのである。(186字)

<その1>
教科書や自分の授業ノートを活用する。

【テスト例1】(「Aと判断する状況」を捉える)

■ 教科書と自分の授業ノートを使って、次の問いに答えなさい。

メロス、ディオニス、セリヌンティウスのうち2名を選び、文章全体を踏まえた上で、①それぞれの人物像と、②二人の関係を答えなさい。

<その2>
選択させる箇所を設ける。
(本文を再読したり、主体的に学習したことを想起したりすることにつながる)

<その3>
指導事項(確認したい資質・能力)を押さえる。

(「参考資料」p.65)

3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について－「参考資料」4 事例から－〈21〉

事例4 「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価の明確化，学習の振り返りの活用

単元「清少納言と自分のものの見方や考え方を比べる」

4 指導と評価の計画（3時間）

（第2学年 C読むこと）

| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
|-----|--|--|----------------------|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 『枕草子』について，小学校での学習を想起するとともに，映像資料を視聴するなどして概要を理解する。 ○ 第一段を読み，清少納言のものの見方や考え方を知る。 | [知識・技能] ① (3)1 | ノート |
| 2・3 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「うつくしきもの」を読み，清少納言のものの見方や考え方を捉え，自分のものの見方や考え方と比べる。 ○ 提示された「ものづくし」の章段からグループで一つ選んで自分たちの考えと比べながら読み，清少納言のものの見方や考え方について意見を述べ合う。 ○ 清少納言と自分のものの見方や考え方を比べて考えたことをまとめる。 ○ 各自でまとめた内容をグループで共有し，代表者がその内容を発表する。 | [思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ① C(1)1 | ノート 振り返りシート 観察 |

単元の中で，何を「知識・技能」として評価し，何を「思考・判断・表現」として評価するかを明確にしておくことが大切です。

- 現代語訳や語注などを手掛かりに『枕草子』を読み，清少納言のものの見方や考え方を知っている状況を「知識・技能」で評価する。
- 『枕草子』を読んで捉えた清少納言のものの見方や考え方と自分の知識や経験を結び付けて考えを広げたり深めたりしている状況を「思考・判断・表現」で評価する。

3. 中学校国語科における指導と評価の工夫について - 「参考資料」4 事例から - 〈22〉

学習の振り返りの活用

【振り返りの項目（例）】

[主体的に学習に取り組む態度] ①
振り返りシート, 観察

※ 第2時と第3時の振り返りの内容等を合わせて評価する。

- ア 本時（や本単元）の学習で意識したこと。
- イ 本時（や本単元）で身に付いた力やできるようになったこと。
- ウ 本時（や本単元）で課題を解決するために試行錯誤したこと。 第3時で使用
- エ 前時までに学習したことで、本時の学習に役立ったこと。 第2時で使用
- オ 本時（や本単元）で工夫しようとしたが、十分ではなかったこと。
- カ 本時（や本単元）で学習したことで、今後の学習や生活の中で生かせそうなこと。

振り返りシートを活用する。

【生徒Xの振り返りシートの記述】

| |
|---|
| <p>(第2時)</p> <p>○前時までに学習したことで、本時の学習に役立ったこと。</p> <p>.....1時間目の授業を受けて、清少納言のものの見方や考え方をどう捉えればよいのか大体分かっていたので、今日は現代語訳をそういう観点で読んでいった。原文が書いてあったので、今の言葉との違いも見付けながら考えた。</p> |
| <p>(第3時)</p> <p>○本単元で課題を解決するために試行錯誤したこと。</p> <p>.....清少納言と自分のものの見方や考え方の特徴を説明するのが難しかったので、共通点と相違点をいくつか書き出したり、友達に説明して意見を聞いたりした。</p> |

新学習指導要領に対応した学習評価 (中学校 国語科)

文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 杉本 直美